社会科「今につながる文化の芽生え　～室町文化とその広がり～」ワークシート

1年（　　）組　名前（　　）

◎今も残る室町文化は、どのようにして生まれたのだろう。

1　教科書で調べて、まとめてみよう。

★室町文化は、（　　）と（　　）の文化がとけあったもの。

★二人の将軍

2　さらにくわしく調べてみよう。

3　本時の学習のまとめ

道徳「自分で判断できる力を」

1年（　　）組　名前（　　）

1　資料を読んで、思ったこと（感想や疑問点など）を書いてみましょう。

2　現代に残る迷信や慣習について、自分なりの考えを整理してみよう。

迷信・慣習	自　分　の　考　え
忌引き（きびき）	残すべき　　なくすべき 【そう考えた理由】
清め塩（きよめじお）	残すべき　　なくすべき 【そう考えた理由】
六曜（ろくよう）	残すべき　　なくすべき 【そう考えた理由】
丙午（ひのえうま）	残すべき　　なくすべき 【そう考えた理由】
女人禁制（にょにんきんせい）	残すべき　　なくすべき 【そう考えた理由】

3　今日の学習の感想を書きましょう。

資料「現代に残る迷信や慣習」

◆忌引き…近親者が死んだために勤めや学校を休み、喪に服すること。また、そのための休暇。〔大辞林〕

◆清め塩…①不浄を清めるための塩。葬式から帰ったときに用いる塩や、力士が仕切りの際に土俵にまく塩などをいう。〔デジタル大辞泉〕
②葬儀や火葬場から戻った人が、玄関先で体に塩を振りかけ清める習慣。宗派により特に意味を持たないこともあります。〔葬儀ベストネット〕
③料理屋・寄席などで、掃き清めた門口に縁起を祝って塩を小さく盛ること。また、その塩。盛り塩。盛り花。口塩。〔大辞林〕

◆六　曜…六輪ともいう。暦日の注。先勝、友引、先負、仏滅、大安、赤口のこと。14世紀に中国から伝えられた（～中略～）いまの形に落ち着いたのは天保（1830～44）のころという。一般に行われるようになったのもこのころからである。現在も婚礼には仏滅を避けて大安が選ばれ、葬式には友引が忌まれるなど、根強く生きている。本来は時刻の吉凶の占いで、先勝は午後は凶、友引は昼凶、先負は午後大吉、仏滅はすべてに凶で、大安はすべてに吉、赤口は正午のみ吉、とされる。（～中略～）旧1月1日は毎年先勝、2日は友引、3日先負と順送りに割り当て、翌2月1日は友引として割り当て直す。旧暦の3月1日はかならず先負、4月1日は仏滅、5月1日は大安と決まっていて、迷信とされるゆえんである。
〔日本大百科全書〕

◆丙　午…干支の一つ。陰陽五行説によると，丙も午も火の性を表すところから，これにあたる年は火災の発生が多いという俗信があり，また江戸時代以来、この年に出生した者は気性が激しく，ことに女性は夫となった男性を早死にさせるという迷信がはびこった。この迷信は社会に根強く浸透し，そのため丙午生まれの女性は縁談の相手として忌避される不幸を招いた。今日でもこの迷信のため 1966年に出生率の低下がみられた。〔ブリタニカ国際大百科事典〕

◆女人禁制…宗教の聖地や祭祀の場など、特定の区域や儀式・儀礼に女性の立ち入りや参加を禁止する風習。世俗の煩悩を断ち切るための修行の妨げになる、女性の月経・出産に伴う出血は穢れとみなされるなどという理由による。（～中略～）
しかし1872(明治5)年、近代化を進める明治政府によって、神社仏閣の女人禁制廃止の布告が出された。西洋人の比叡山などへの入山を念頭に置いたものと考えられている。（～中略～）女人禁制が大きく注目されたのは、18年4月のことである。京都府舞鶴市で開かれた日本相撲協会の春巡業で、土俵に倒れた市長の救命措置をする女性に向け、若手行司が土俵から降りるよう場内アナウンスし、強い批判を浴びた。女人禁制を優先した行為だったが、協会の八角理事長は深く謝罪しながら、「大相撲は神事を起源としている」「大相撲の伝統文化を守りたい」「力士にとって土俵は男が上がる神聖な戦いの場、鍛錬の場である」という三つを理由に、これまでの女人禁制に理解を求めた。加えて、決して女性差別ではないことを強調し、今後、観客の意識調査や外部の意見聴取などを行った上で、「土俵の女人禁制」について再検討すると表明している(18年5月末時点)。〔知恵蔵〕